

保護者様

京都市立宇多野小学校
校長 和田 夕美子

令和2年度 後期学校評価アンケート結果のご報告

後期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。児童数474名（アンケート実施当時）に対して、保護者の回答数が417件（回収率約88%）だった結果から、保護者の皆様の学校に対する関心の高さが伺えます。

今回もアンケート実施と同時期に、児童と教職員にもアンケートを実施しました。それらの結果を報告させていただきます。今後も学校教育へのご協力をよろしくお願いいたします。

1. 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標 学ぼうとする意欲や生涯にわたって学び続ける力を身につけさせる。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 授業は分かりやすいですか。児童95.4% 保護者89.6% 教職員87.0%
- ② 授業中、進んで発表していますか。児童64.5% 保護者63.2% 教職員78.3%
- ③ 学習ノートを見やすく書いていますか。児童83.1% 保護者75.6% 教職員73.9%
- ④ 学習ノートに、「めあて」に沿った「振り返り」を書いていますか。
児童89.8% 保護者80.6% 教職員65.2%
- ⑤ 自分から進んで家庭学習をしていますか。児童71.1% 保護者61.7% 教職員65.2%
- ⑥ 読書の習慣が身についていますか。児童74.4% 保護者52.3% 教職員69.5%

分析（成果と課題）

保護者の指数が、前期に比べ③については7.2%、④については7.1%上がりました。いずれも学習ノートに関する項目です。今年度は6年間を見通した「ノートの書き方」に沿ったノート作りを徹底して指導してきました。また、月に一回ノート検定を実施したり、子ども自らがチェックポイントを見て到達度を確認したりする等、授業における学びの足跡が残るノート作りを意識させてきたことが要因だと考えられます。教職員研修では、「問題文の読解力が低いこと」や「問題をやり慣れていないこと」が課題として挙げられました。⑥についての保護者の指数が52.3%と約半分であることが示すように、読書の習慣が身についていないことや、読んでいる本の分野に偏りがあることが課題の原因として考えられます。

分析を踏まえた取組の改善

問題文をよく読んでいないのか、理解できていないことによって解けていないことが多いので、とにかく文章に触れる機会を増やしていきたいと思います。具体的には、読書ノートを冊数だけでなく、分野の偏りがなかったかのチェック機能としても使用したり、常時国語辞典を本袋に入れて置き必要に応じて使用させたり、帯時間や宿題での課題を漢字だけでなく言葉に特化したものを繰り返し練習するなどの取組を実行していきたいと考えています。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 規範意識の育成や道德教育の充実を図り、支え合い高め合う集団をつくる。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 自分からあいさつができていますか。児童 88.5% 保護者 72.5% 教職員 43.4%
- ② 相手を思いやり、親切にすることができますか。
児童 94.6% 保護者 94.3% 教職員 100.0%
- ③ 周りの人から大切にされていますか。児童 95.2% 保護者 98.9% 教職員 100.0%
- ④ ものを大切にしていますか。児童 92.9% 保護者 70.8% 教職員 65.2%
- ⑤ 学校のきまりや社会のルールを守っていますか。
児童 95.4% 保護者 95.3% 教職員 91.3%

分析（成果と課題）

全体的に前期に比べてあまり変化がありませんでした。②と③については教職員の指数が100.0%を示しました。学校・家庭・地域が三位一体となって、「他の人を思いやり、親切にする子」を育ててきた結果だと考えられます。①については、児童・保護者に比べ、教職員は43.4%と半分を切っています。

分析を踏まえた取組の改善

「自ら進んであいさつのできる子ども」を育てていくことについても、学校・家庭・地域が三位一体となることが大切です。今後も人権教育の第一歩につながることを意識して取り組んでいきたいと思います。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 運動やスポーツの実践と体力の向上、健康的な生活を送る子を育成する。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 睡眠時間は8時間以上とれていますか。児童 88.8% 保護者 90.1% 教職員 56.5%
- ② 毎日朝ごはんを食べていますか。児童 98.2% 保護者 97.7% 教職員 87.0%
- ③ 外遊びやスポーツなどで、体を動かしていますか。
児童 85.3% 保護者 76.8% 教職員 87.0%
- ④ テレビを観たり、ゲームをしたりする時間を決めていますか。
児童 73.1% 保護者 55.2% 教職員 56.5%
- ⑤ 安全に登校できていますか。児童 96.8% 保護者 96.9% 教職員 91.3%
- ⑥ 安全に下校できていますか。児童 95.7% 保護者 95.5% 教職員 52.2%

分析（成果と課題）

コロナ感染症によって外出を控えていた影響もあってゲームをする時間が増えていると思われますが、④については保護者・教職員ともに約半分の指数を示しています。また、⑥の下校については、教職員の指数が登校に比べて39.1%下がっています。実際に、「下校時の歩き方が危ない」という報告を、地域の方やスクールガードリーダーの方から聞いており、学校でも安全指導をすることがありました。

分析を踏まえた取組の改善

④については、毎日の健康観察や保健教育を充実させ、基本的な生活習慣が子どもたちに身につくように引き続き子どもたちに働きかけていきたいと思います。また、来年度もケータイ教室や情報モラル学習を行い、家庭との連携も図っていききたいと思います。⑥については、一人一人が約束を守り、安全に気をつけられるように気持ちを落ち着けて下校するよう継続して指導していくとともに、ご家庭でも声かけをしていただけると有難いです。